

レシップ株式会社様 導入事例

Arcstar Universal Oneモバイル M2M

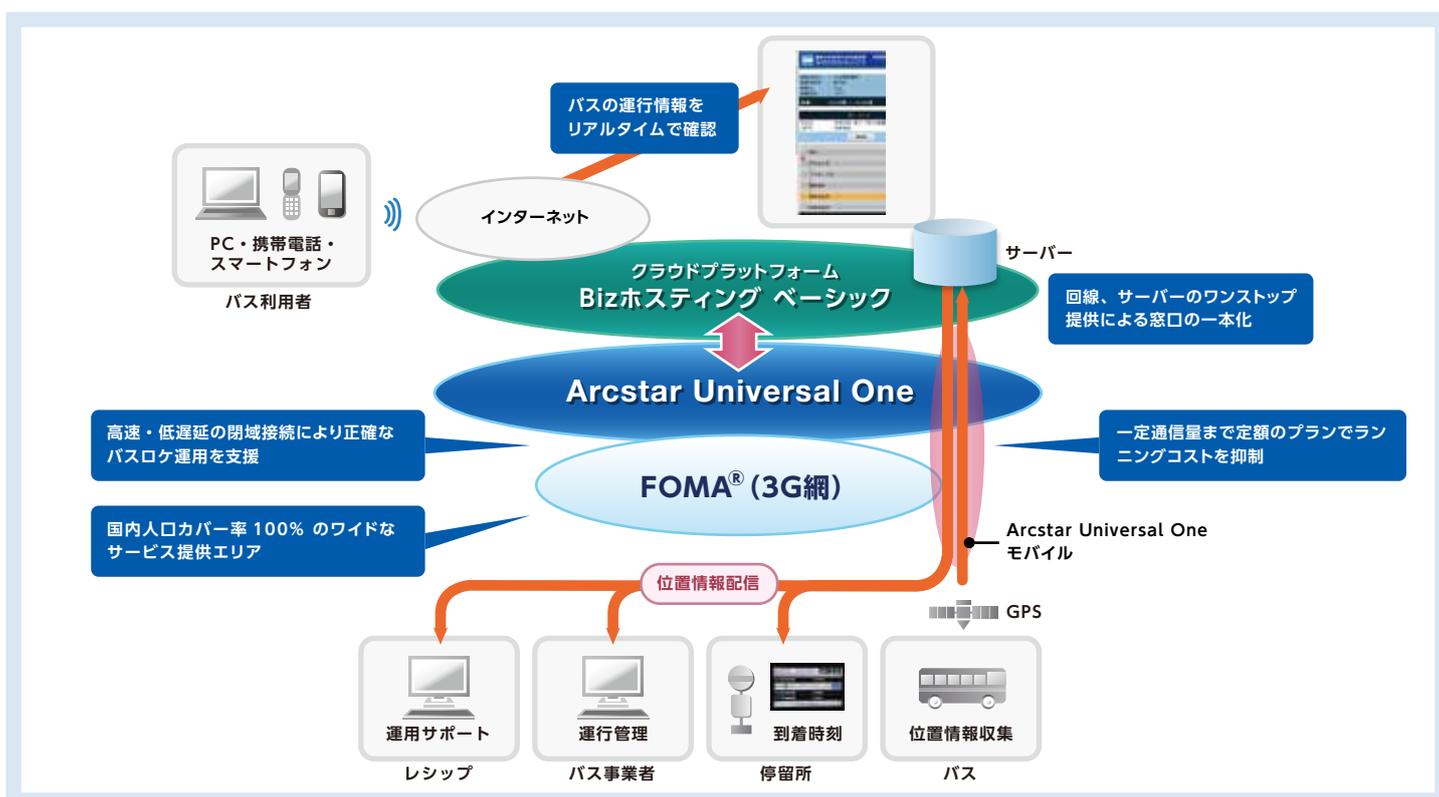
CASE STUDY

バスロケーションシステムの回線に必要な高品質と低コストを両立。



バスロケーションシステム(以下、バスロケ)とは、GPSを利用してバスの位置情報を収集し、停留所でバスを待つ乗客、自宅にいるバス利用者のスマートフォンやPCにバスの到着予測時刻を提供。バスの利便性を高める情報提供サービスだ。

バス用電装機器のトータルサプライヤー レシップ株式会社様 (以下、レシップ) では、バスロケの要となる回線に“Arcstar Universal Oneモバイル”を採用。信頼性、リアルタイム性という高い回線品質とランニングコスト削減の両立で、サービスの付加価値を高めている。



お客様の課題

導入後のメリット

正確性が前提となるバスロケの運用に適した **高品質なネットワーク**

高速・低遅延の閉域接続によりバスロケ運用の **正確性、リアルタイム性を確保**

全国のバス事業者への提供に向けた **ネットワークエリアの拡大**

国内人口カバー率100%のFOMA[®]網により **広いエリアでのサービス展開を支援**

バス、停留所などの多回線導入をふまえた **ランニングコストの抑制**

安価なM2Mプランの採用で多回線導入時の **ランニングコストを削減**

バスロケに関する回線、サーバーなどの **サービス管理のシンプル化**

回線、サーバーのワンストップ提供による窓口一本化で **管理の負荷を軽減**

① 導入の背景

トータルサプライヤーの強みを活かした 高付加価値なバスロケ事業を展開。



レシップ株式会社
営業本部
営業企画部長
北野元昭氏

岐阜県に本社を置くレシップは、バス・鉄道用機器の製造および販売を手がける産業向け電装品メーカーだ。同社では公共交通機関を介して「快適な日常を実現する」をキーワードに、バス事業者はもとより、その先のバス利用者も視野に入れた事業を展開。快適な日常を実現する取り組みのひとつとしてバスロケサービスの提供を開始している。

同社 営業本部 営業企画部長 北野元昭氏は「雨や雪といった天候、道路の混雑など、さまざまな要因でバスの遅れは発生します。こうした状況で停留所にバスの到着時刻が表示されれば、バスの利用者さまは大変助かります。さらにバス事業者さまにとってもバスの運行状況がわかるというのは大きなメリットです」と提供の背景を語る。同社のバスロケはバス停留所のディスプレイにバスの到着予告時刻を表示するのみならず、バスの遅延状況、バスから電車への乗り継ぎ情報などが携帯電話、スマート

フォン、PCで検索できるシステム。AFC（運賃収受システム）、PIS（乗客情報システム）との連動など、バスロケを基盤としたシステムの柔軟なスケールアップも可能だ。

「私たちは日本全国のバス事業者さまに、バスの運行に必要なハードウェア、ソフトウェア、システムをトータルに提供しています。こうしたトータルシステムサプライヤーとしての実績を活かし、バス向け電装品とバスロケを連動させることで、さまざまな付加サービスを提案できる点が、最大の強みです」（北野氏）。

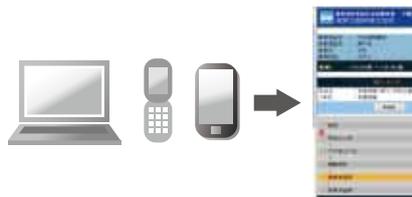
バスロケの運用において重要な役割を担うもの。それはバスや停留所とサーバーをつなぐネットワークといっても過言ではない。それだけに新たなバスロケのサービス提供に向け、レシップではさまざまな角度から自社のバスロケに最適なネットワークの検討を開始した。

レシップが提供する“バスロケ”の特長

バス停留所においても



携帯電話、スマートフォン、PCからでも



バスの遅延状況、他路線
バス・電車への乗り継ぎ
情報などがタイムリーに
確認可能

② 導入の決め手

品質、エリア、コスト。バスロケに求められる 厳しい条件を高いレベルでクリア。



レシップ株式会社
生産本部
ソリューション部長
中根慎一郎氏

バスロケの運用を支えるネットワークを選択する際に重視する第一の条件として、同社 生産本部 ソリューション部長 中根慎一郎氏は「バスロケでは正確な情報提供が大前提です。たとえば到着のお知らせが15秒遅れると、バスが停留所を出てしまっているかもしれない。このためバスや停留所をつなぐネットワークには信頼性、リアルタイム性が重要になってきます」と説明する。さらに「多くのバス事業者さまは広いエリアで運行されていますので、どんな場所でもつながるネットワークであることも大切です」（中根氏）と続ける。バスや停留所ごとに多くの回線が必要となるため、ランニングコストをいかに抑えるかも条件のひとつだった。

いくつかの悩ましい条件のもとで同社が複数のネットワークサービスを

検討していた時期に、NTTコミュニケーションズからの提案を受けたという。

「閉域網による高い通信品質、FOMA®網の提供エリアの広さが私たちの求める条件に合っていました。またコスト面でのリクエストにも応えていただき、当初は別で検討していたサーバーホスティングを併せてご提案いただいたことが選択の決め手になりました」（中根氏）。こうして同社はバスロケの足まわりに“Arcstar Universal Oneモバイル”を選択。約2ヵ月の準備期間を経て、予定通り2012年4月末よりバスロケサービスの提供をスタートさせた。

バスロケ回線に最適な“Arcstar Universal Oneモバイル”

常時接続で運用を支える
遅延の少ない閉域接続

全国の路線をカバーする
幅広いサービス提供エリア

多回線の利用に適した
経済的なランニングコスト

③ 評価と展望

稼働後の回線の安定性を高く評価。

バスロケを基点としたマルチコンテンツ配信に弾み。

すでに同社のサービスの提供を開始して1年近くが経ち、“Arcstar Universal Oneモバイル”を利用した環境でバスロケをはじめとしたいくつかのシステムが運用されている。その評価はどのようなだろうか。

「現段階では都市部のバス事業者さまが多いため、常時接続については問題ありません。気にしていたリアルタイム性についても十分な数値が出ている。これまで通信に関するトラブルもなく非常に満足しています。万一の際も保守対応が充実しており、回線からサーバーまでひとつの窓口で対応してもらえるので安心です」と中根氏はサーバーを含めたネットワーク環境を高く評価する。また導入先の評判についても「携帯電話のイメージがあるのでしょうか。カバーエリアの広いNTTドコモのFOMA®回線だから安心して利用できるという声が多く、なかには最初からFOMA®回線が前提のオーダーもあります」と北野氏は合格点を与える。

バスのトータルシステムサプライヤーとして、レシップはバス事業者の業務や経営を改善するさまざまなビジョンを描いている。今回バスロケに

よりバスと停留所がオンライン化できたことで、ここに今後は魅力的なコンテンツを配信していく予定だ。「デジタルサイネージとの連動をはじめとした幅広いコンテンツやサービスの提供により、バス事業者さま、その先のバス利用者さまに新たな価値を提案していきます」(中根氏)。「現在、バス1台に用途別でGPSアンテナが3、4個ついています。当然、同じ数の回線もついていて、これを1本に集約できればお客さまが新たなシステムを導入するごとに、増えていくランニングコストの問題が解消できる。いろいろ解決すべき課題はありますが、NTTコミュニケーションズに協力していただき、取り組んでいきたいと考えています」(北野氏)。

トータルシステムサプライヤーとしての強みを活かしたユニークなビジョン。同社の取り組みをNTTコミュニケーションズはネットワークを軸にしたトータルなソリューション提案で支援していく。

“Arcstar Universal Oneモバイル”導入後の評価

リアルタイムな運用を支える十分な回線品質

回線トラブルはゼロつねに安定した稼働

FOMA®回線による顧客満足の獲得

LECIP

レシップ株式会社

■本社：岐阜県本巣市上保1260番地の2

■事業内容：バス・鉄道用機器の製造及び販売

■設立：2010(平成22)年10月1日

■URL：<http://www.lecip.co.jp/>

■従業員：240名(2012年3月末日現在)



<http://www.ntt.com/vpn/mobile/>